

日本語説明
にほんごせつめい

Lesson 1 (p.21)

※「脱ぐ」「食事をする」「寝る」「使う」のように、動作を表す動詞が述語のときは、場所を表す名詞に格助詞「で」がつきます。

Lesson 2 (pp.36-38)

名前を紹介する、内容を紹介する
なまえをしやうかいする、ないようをしやうかいする

「～という～」

聞き手（読者）が知らないと思われる場所や建物、人の名前などを言うときには、「～という場所／建物／人」などと紹介します。「～」には固有名詞が入ります。しかし、「？」で示した例の「新宿駅」「マイケル・ジャクソン」のように、一般的に有名な固有名詞について言う場合（相手が知っていると思われる場合）、「～という」は使いにくいです。（「？」のマークは、日本語が不自然であることを表しています。）

イベントや計画の内容を紹介するときには、「～というイベント／計画」などと紹介します。「～」には、名詞か、動詞の辞書形が入ります。

何ができるのかを言う

可能形 (Potential form)
かのうけい

「わかる」「知る」「見える」「聞こえる」のような動詞は、可能形になりません。

他動詞の場合、下の例のように、可能を表す動作の対象を「を」ではなく「が」で表すことが多いです。

ある条件のとき、何ができるか／必要かを言う (1)
あるじょうけんのとき、なにができるか／ひつよう

「～なら」

立場や資格、内容といった条件によって、できることや必要なものが変わることを表すときに「～なら」を使います。「～」には、名詞、形容詞・動詞の辞書形・ない形などが入ります。

ある条件のとき、何ができるか／必要かを言う (2)
あるじょうけんのとき、なにができるか／ひつよう

「～ば」

「～なら」と同じように、条件によって、できることが変わることを表すときに「～ば」を使います。名詞とな形容詞は「～なら」を使うのが一般的ですが、「～であれば」を使うこともあります。

方法や料金を言う
ほうほう りょうきん

「～で」

格助詞「で」を使って、手段・方法、料金を表すことができます。

Lesson 3 (pp.58-60)

テーマを紹介する
しやうかい

「～について(の)」

調査、研究、発表、論文などのテーマ・トピックを紹介するときに「～について」を使います。「～」には名詞が入ります。また、2つ目の例のように「調査」、「研究」、「発表」、「論文」などの名詞を修飾するときには、「～についての」になります。

禁止されていること・避けられていることを言う
きんし「～では、～(すること)が禁止されている」
きんし

ある社会やコミュニティで禁止されているもの・ことを説明するときには、「【社会】では～が禁止されている」のように、社会やコミュニティを主題にした受身文を使います。「～」には名詞が入ります。動詞を使うときは「動詞の辞書形+ことが禁止されている」になります。

また、「～てはいけない」を使って、禁止されていることを表すこともできます。

注意する・アドバイスする
ちゅうい

「～{する/しない}のように{してください/気をつけましょう}」

したほうがいいことを注意・アドバイスするとき「～するようにしてください」「～するように気をつけましょう」などを使います。反対に、しないほうがいいことを注意・アドバイスするとき、「～しないようにしてください」「～しないように気をつけましょう」などを使います。「～」には、動詞の辞書形、もしくは、ない形が入ります。

例をあげる
れい

「～や～(など)」

「～や～(など)」は、他にも選択肢があるうちの2つを取り上げて例にあげる表現です。「や」による例示は、他にも当てはまるものがあることが含意されます。似ている表現として「～と～」がありますが、「～と～」は他に選択肢がなく、当てはまるものがこの2つしかないときに使われます。

順番に説明する
じゅんばん せつめい「まず」「次に」「最後に」 / 「1つ目は」「2つ目は」「3つ目は」…
つぎ さいご

いくつかの項目について説明するときには、「まず」「次に」「最後に」などの接続表現を使うと読みやすくなります。はっきり2つだけ、3つだけと紹介する項目の数が決まっているときは、「～は2つあります」と先に数を言ってから、「1つ目は～」「2つ目は～」と説明するとわかりやすくなります。

「1つ目は～です」「2つ目は～です」の「～」には、名詞が入ります。動詞や形容詞などは「普通形+こと」で名詞化しなければいけません。

Lesson 4 (pp.80-81)

聞き手に命令(依頼)する・禁止する(1)

「～てください」「～ないでください」／「～て」「～ないで」

聞き手に命令したり、禁止したりするときには、相手との関係によってどのような言葉遣いをするのが変わります。店員が客に、目下の人が目上の人に命令(依頼)したり、禁止したりする場面では、丁寧な言い方が好まれますから、「机やテーブルの下に入ってください」「窓の近くには行かないでください」と言います(緊急のときは、この限りではありません)。一方、クラスメートや友達など親しい人に対しては、「～て」「～ないで」というくだけた言い方が多いです。

聞き手に命令(依頼)する・禁止する(2)

「～なければいけません」「～てはいけません」／「～なきゃ」「～ちゃだめ」

「～なければいけない」は、その行為をする義務があることを表し、「～てはいけません」は、その行為を禁止することを表します。読み物の中で、これらの表現は、次のように使われていました。

これらは地震が起きたときにすべき行動、するべきではない行動を説明したもので、実際に目の前にいる聞き手に対して注意喚起する発話ではありませんでした。会話の中では、丁寧な言い方が好まれる場合、上の書き言葉と同じで「気をつけなければいけません」「飛び出してはいけません」と言うことができます。クラスメートや友達など親しい人に対しては、「～なきゃ」「～ちゃだめ」といったくだけた表現を使うことが多いです。

※「～なければいけません」と「～てはいけません」は、丁寧な言い方だとしても、目上の人に対して使ったり、店員が客に対して使ったりすることはできません。「気をつけてください」「飛び出さないでください」という命令(依頼)・禁止の表現を使うほうが自然です。

Lesson 5 (pp.98-100)

提案する
ていあん

「～すべきだ」「～{する/した}ほうがいい」

「べきだ」は「なければならない」と同じように義務や必要性を表しますが、「べきだ」のほうが、「社会的に／常識から考えてそう判断される」と言いたいときに使われます。「べきだ」は特定の聞き手に対して使われると忠告・アドバイスとして用いることもできますが、個人に対してよりも社会やグループ全体に対するものとして使われることが多いのが特徴です。この課のようにプレゼンテーションの中で提案として使うこともできます。否定は「するべきではない」になるので気をつけましょう。「べきだ」が使えるのは意志動詞だけです。「動詞の辞書形+べきだ」となります。

「～{する/した}ほうがいい」は、その行為が望ましいということを表す表現です。「する」「した」どちらも使いますが、特定の(具体的な)相手に対してアドバイスをするときを使う場合は「したほうがいい」が用いられやすいです。一方、一般論としてAとBを比べてAのほうが良いという意味で用いられるときには「(Bするより)Aするほうがいい」になりやすいと言われます。この課で出てきたように、プレゼンテーショ

ンの中で提案として使うこともできます。プレゼンテーションの中では「～ほうがいいと思います」という形で用います。

ある条件で、良いことが起きると予想する

「～ば、{～ようになる／～くなる／～になる}と思う」

提案どおりにするとどのような変化があるのかを示す表現です。ある条件の下で良い変化が起きることを言うときは、「ば」で条件を表すことが多いです。提案の内容を述べた後に、「そうする」「このようにする」で指して、「そうすれば」「このようにすれば」と言うこともできます。変化の表現は「動詞の辞書形＋ようになる」「い形容詞＋くなる」「な形容詞＋になる」で表します。

ある条件で、良くないことが起きると予想する

「～と、～」

提案のようにしないと（今の状態のままだと）どのようなことが起こるのかを示す表現です。ある条件の下で、良くないことが起きることを言うときは、「と」で条件を表すことが多いです。提案の内容を述べた後に、「そうする」「このようにする」で指して、「そうしないと」「このようにしないと」と言うこともできます。「と」の前には辞書形とない形が来ます。

Lesson 6 (pp.120-122)

提案する(1)

「～(すること)を提案する」

提案したい内容が「売れ残った服を寄付する」のような文の場合、動詞を「こと」で名詞化して「～することを提案する」になります。

提案したい内容が「より良いリサイクルの方法」のような名詞の場合、「こと」は必要ありません。「～を提案する」になります。

提案する(2)

「～するべきだ」

文法説明は Lesson 5 (pp.98-99) を参照してください。

なぜその提案をするのか、理由を言う

「～からだ」

提案を述べた後で、その理由を説明するときには「～からだ」を使います。「からだ」の前には、動詞やい形容詞の普通形が来ます。な形容詞と名詞の場合は、「～だ／である＋からだ」になります。

理由が1つ以上ある場合、「理由は ～{つ・点}あります」と予告して、「1つ目は」「2つ目は」のように順に述べると理解しやすいです。

提案のメリット・デメリットを言う
ていあん

「～ば、－というメリットがある」「～と、－というデメリットがある」

提案を述べた後で、そのメリットを言うときには「～ば、－というメリットがある」を使います。「～ば」には、提案の内容が入ります。「－」には、その提案を実行することによって生まれるプラスの結果が入ります。

ていあん の あと
ていあん ないよう
ていあん じっこう
つか

一方、デメリットを言うときには「～と、－というデメリットがある」を使いましょう。「～ば」は、それを実現することによってプラスの結果が現れるときに使われる傾向があるので、デメリットを表すときには「～と」を使います。「－」には、その提案を実行することによって生まれるマイナスの結果が入ります。

いっぽう
じっげん
つか
けっ か
あらわ
つか
けいこう
あらわ
つか
ていあん じっこう
けっ か

解決策を言う
かいけつさく「～ば {いい／解決できる}」
かいけつ

デメリットを言った後で、それを解決する方法（＝解決策）を言うときには、「～ば {いい／解決できる}」を使います。「～ば」には解決するために行う動作が入ります。

あと
かいけつ ほうほう
かいけつさく
つか
かいけつ
おこな どう さ